

令和7年度の業務実績に関する項目別自己評価書 修正表

(変更箇所は太字下線部分)

自己評価書 No.	ページ数	修正後	修正前	理由
1	13	さらに、令和6年度までの伝送システム開発と合わせて IEEE <u>Trans.</u> On EMC に論文投稿を行った。	さらに、令和6年度までの伝送システム開発と合わせて IEEE <u>Tans.</u> On EMC に論文投稿を行った。	誤記を修正
	14 自己評価欄	最高周波数を 18GHz に拡張した <u>近接電磁耐性</u> 評価用小型アンテナの応用として本アンテナを使用した車載機器の近接放射イミュニティ試験法	最高周波数を 18GHz に拡張した <u>接電磁耐性</u> 評価用小型アンテナの応用として本アンテナを使用した車載機器の近接放射イミュニティ試験法	誤記を修正
	21	<u>新規固体材料</u> である窒素内包フラーレンの基礎検討については、高いQ値を有する新規評価系(メカニカルカップリング法)を時計遷移とする検討を進めた。	<u>新規交代材料</u> である窒素内包フラーレンの基礎検討については、高いQ値を有する新規評価系(メカニカルカップリング法)を時計遷移とする検討を進めた。	誤記を修正
	25	これにより異なる4つの波面を角度多重記録したHOEにより、4つの波面変調素子と3つのビームコンバイナを <u>組み合わせた</u> 光学系に相当する機能を単一の光学素子に統合できるようになるため、省スペース化と軽量化が見込まれる。	これにより異なる4つの波面を角度多重記録したHOEにより、4つの波面変調素子と3つのビームコンバイナを <u>組みわせた</u> 光学系に相当する機能を単一の光学素子に統合できるようになるため、省スペース化と軽量化が見込まれる。	誤記を修正
2	58	<u>令和7年度に約500件ダウンロードされ、平成29年3月以降の全公開文書累計で5,500件以上となり、</u> 製造現場での無線通信の実用性向上に貢献した。	<u>平成29年3月以降、全公開文書累計5,500件以上ダウンロードされ、</u> 製造現場での無線通信の実用性向上に貢献した。	令和7年度の実績を明確化
3	152 自己評価欄	例えばプレCYDERの <u>拡充</u> や新コンテンツの開発等、利用者のニーズや状況に応じた改善等にも取り組んでおり	例えばプレCYDERの <u>本格的実施</u> や新コンテンツの開発等、利用者のニーズや状況に応じた改善等にも取り組んでおり	「自己評価」欄の記載を「法人の主な業務実績」欄に合致するよう修正
	153 自己評価欄	例えばプレCYDERの <u>拡充</u> や新コンテンツの開発等、利用者のニーズや状況に応じた改善等にも取り組んでおり	例えばプレCYDERの <u>本格的実施</u> や新コンテンツの開発等、利用者のニーズや状況に応じた改善等にも取り組んでおり	「自己評価」欄の記載を「法人の主な業務実績」欄に合致するよう修正
	159	これらの取組の結果、WarpDriveへの参画組織数は <u>令和7年度に7組織増加し、令和7年度末時点で19組織</u> となった。	これらの取組の結果、WarpDriveへの参画組織数は <u>令和7年度末に19組織</u> となった。	令和7年度の実績を明確化
	167 課題と対応	特に、 <u>USENIX Security 2024</u> の論文“How WEIRD is Usable Privacy and Security Research?”は、	特に、 <u>USBNIX Security 2024</u> の論文“How WEIRD is Usable Privacy and Security Research?”は、	誤記を修正
	167 課題と対応	ユーザ調査の研究対象が <u>西洋偏重</u> であり、	ユーザ調査の研究対象が <u>西洋変調</u> であり、	誤記を修正
	167 課題と対応	研究分野を切り拓く独創的かつ先導的 <u>な研究として、国際的にリードするものとなっています。</u>	研究分野を切り拓く独創的かつ先導的	誤記を修正
	168 課題と対応	イベント・学会等においてリクルート展示を <u>積極的に取り組む</u> 一方	イベント・学会等においてリクルート展示を <u>積極的に行う取り組む</u> 一方	誤記を修正
4	175 自己評価欄	総じて、 <u>いずれの</u> 研究成果も科学的意義、社会的価値と社会実装の両面で	総じて、 <u>いずれも</u> 研究成果も科学的意義、社会的価値と社会実装の両面で	誤記を修正
	176	<u>Interspeech</u> 2025 で1件発表した。	<u>Interspeech</u> 2025 で1件発表した。	誤記を修正

	177 自己評価欄	IEEE ASRU 2025 で 2 件、 <u>Interspeech</u> 2025 で 1 件、および <u>IEEE ACCESS</u> で 1 件発表するなど、	IEEE ASRU 2025 で 2 件、 <u>Interspeech</u> 2025 で 1 件、および <u>IEEE ACCESS</u> で 1 件発表するなど、	誤記を修正
	180	消防関連では、消防研究センターと共同で開発した救急隊用多言語音声翻訳アプリ「 <u>救急ボイストラ</u> 」の消防本部への導入数について、令和 7 年度には 1 本部に追加導入され、 <u>47 都道府県の 722 本部に対して、691 本部（96.0％）に達した</u> （令和 8 年 1 月 1 日時点）。	消防関連では、消防研究センターと共同で開発した救急隊用多言語音声翻訳アプリ「 <u>救急ボイストラ</u> 」が <u>47 都道府県の 722 本部中 691 本部（96.0％）の消防本部で導入された</u> （令和 8 年 1 月 1 日時点）。	令和 7 年度の実績を明確化
	180	<u>「MW スタンドアローン同時通訳」</u>	<u>「MW スタンドアローン同時通訳」</u>	誤記を修正
	181	前述の広報活動等による民間企業からの引き合いに対応するとともに、既存の技術移転先の製品・サービスの紹介も <u>令和 6 年度に引き続き実施した</u> 。その結果、研究開発成果であるソフトウェアやデータベースの直接ライセンスは、計 48 件（38 者）となった。また、スタンドアローン型同時通訳技術に関して、 <u>令和 6 年度に契約を締結した民間事業会社 1 者をハブとした</u> 再実施許諾スキームを活用して社会展開を <u>促進した</u> 。	前述の広報活動等による民間企業からの引き合いに対応するとともに、既存の技術移転先の製品・サービスの紹介も <u>実施した</u> 。その結果、研究開発成果であるソフトウェアやデータベースの直接ライセンスは、計 48 件（38 者）となった。また、スタンドアローン型同時通訳技術に関して、 <u>民間事業会社 1 者と契約を締結し、同社をハブとした</u> 再実施許諾スキームを活用して社会展開を <u>促進する</u> 。	令和 7 年度の実績を明確化
	181	さらに、翻訳モデルのカスタマイズを実現するアダプテーション技術に関して、 <u>令和 6 年度から継続して 5 者と商談を行い</u> 、2 者と契約を締結した。	さらに、翻訳モデルのカスタマイズを実現するアダプテーション技術に関して、 <u>5 者と商談を行い</u> 、2 者と契約を締結した。	令和 7 年度の実績を明確化
	182	タミル語の日常会話の音声認識に関して音声認識結果を読んである程度理解できるレベルの認識精度（ <u>準実用レベル</u> ）	タミル語の日常会話の音声認識に関して音声認識結果を読んである程度理解できるレベルの認識精度（ <u>準実用レベル</u> ）	誤記を修正
	186 自己評価欄	複数の民間企業等へ日本語学習用のデータや <u>試作した</u> LLM の提供を行い、民間企業における研究開発力強化に貢献したこと。	複数の民間企業等へ日本語学習用のデータや <u>試作し</u> LLM の提供を行い、民間企業における研究開発力強化に貢献したこと。	誤記を修正
	193	MM センシングを汎用化した基盤モデルを <u>構築した</u> 。その際、ニューロシンボリック AI を応用し、	MM センシングを汎用化した基盤モデルを <u>構築した</u> 、その際、ニューロシンボリック AI を応用し、	誤記を修正
5	208	高 Q 値窒化シリコン（SiN）のリング型微小共振器実現のため、 <u>成膜条件の最適化</u> により、リング共振器とバス導波路の結合（狭ギャップ構造）の埋め込みに成功した。	高 Q 値窒化シリコン（SiN）のリング型微小共振器実現のため、 <u>成膜条件の最適</u> により、リング共振器とバス導波路の結合（狭ギャップ構造）の埋め込みに成功した。	誤記を修正
	213 自己評価欄	深紫外光を大型ホールの“上層空間のみ”に選択的に照射する <u>技術の開発により</u>	深紫外光を大型ホールの“上層空間のみ”に選択的に照射する <u>技術を開発により</u>	誤記を修正
	226 自己評価欄	<u>獲得した成果が社会実装</u> につなげるよう取組を進めています。	<u>獲得成果が社会実装</u> につなげるよう取組を進めています。	誤記を修正
6	233 主要な経年データ	③特許登録件数 令和 7 年度 <u>151</u>	③特許登録件数 令和 7 年度 <u>148</u>	誤記を修正
	236	<u>令和 6 年度までに</u> 、Beyond 5G アーキテクチャについてフォーカスすべき重要な構成要素を 3 点抽出し、それぞれ得意分野をもつ研究部署やアーヘン工科大学やシンガポール工科大学など対外組織と共同で構築したサービスを可視化する概念実証システム（PoC）としてトータルでサービスの検証が行える <u>環境として整えたが、令和 7 年度には、さらに</u> 2025 大阪・関西万博への出展、研究所による標準化活動（3GPP, IEEE802, ITU-T, IOWN GF）につなげた。	Beyond 5G アーキテクチャについてフォーカスすべき重要な構成要素を 3 点抽出し、それぞれ得意分野をもつ研究部署やアーヘン工科大学やシンガポール工科大学など対外組織と共同で構築したサービスを可視化する概念実証システム（PoC）としてトータルでサービスの検証が行える <u>環境として整え</u> 、2025 大阪・関西万博への出展、研究所による標準化活動（3GPP, IEEE802, ITU-T, IOWN GF）につなげた。	令和 7 年度の実績を明確化

	236	Beyond 5G/6G の分野において世界で最も取組が進んでいる日独の間で戦略的なパートナーシップを深化させる取組として、 <u>令和6年度に引き続き</u> 、研究者コミュニティの形成から共同研究の始動、国際連携ファンドの獲得、研究成果の共同出展に至るまで、国際連携を通じた橋渡しにより研究を加速させる取組を <u>進めた</u> 。	Beyond 5G/6G の分野において世界で最も取組が進んでいる日独の間で戦略的なパートナーシップを深化させる取組として、研究者コミュニティの形成から共同研究の始動、国際連携ファンドの獲得、研究成果の共同出展に至るまで、国際連携を通じた橋渡しにより研究を加速させる取組を <u>進め、日独研究者コミュニティを百名規模にまで成長させた</u> 。	令和7年度の実績を明確化
	237	【学術分野】 <u>令和6年度まで</u> 、世界の Beyond 5G/6G リーダーが集う多くの機会において、ホワイトペーパーに記載したビジョンを提示し、多くの賛同を得た実績に基づき、各国がそれぞれ持つ強みとの相乗効果が得やすい分野を見極めつつ、国際連携の成功モデルも活用しながら効率的かつ効果的に関係を醸成させ、MoU 締結やワークショップ開催により、具体的な共同研究プロジェクトを生み出してきた。 <u>令和7年度においても</u> 、これらを通して、機構をハブとした Beyond 5G 研究活動の国際的な展開を急速に加速させた。	【学術分野】世界の Beyond 5G/6G リーダーが集う多くの機会において、ホワイトペーパーに記載したビジョンを提示し、多くの賛同を得た。この実績に基づき、各国がそれぞれ持つ強みとの相乗効果が得やすい分野を見極めつつ、国際連携の成功モデルも活用しながら効率的かつ効果的に関係を醸成させ、MoU 締結やワークショップ開催により、具体的な共同研究プロジェクトを生み出した。これらを通して、機構をハブとした Beyond 5G 研究活動の国際的な展開を急速に加速させた。	令和7年度の実績を明確化
	237-238	MWC@ <u>バルセロナ</u>	MWC@ <u>パロセロナ</u>	誤記を修正
	238	Beyond 5G のサービスイメージなど新たな <u>価値創出の可能性</u> があることを議論する	Beyond 5G のサービスイメージなど新たな <u>価値創出が可能性である</u> ことを議論する	誤記を修正
	240	IEC <u>国内委員会</u> からの依頼で参画	IEC <u>国内員会</u> からの依頼で参画	誤記を修正
	240	社会実装推進に関する議論の <u>アウトプット</u> として整理された産業用途に特化した仕組みとライフサイクルの無線モジュールの提供に関して	社会実装推進に関する議論の <u>アプトプット</u> として整理された産業用途に特化した仕組みとライフサイクルの無線モジュールの提供に関して	誤記を修正
	244	総額 663 <u>億</u> 円	総額 663 <u>億</u> 円	誤記を修正
7	291 自己評価欄	ITU 等の国際標準化会議において、機構職員から、議長、ラポータ、エディタ等の重要ポストに <u>延べ34名、計70ポスト</u> に輩出し、国際標準化活動の議論をリードするとともに、国内標準や国際標準化会議に向けた我が国の対処方針を検討する国内委員会においても、機構職員が <u>延べ57名、計83ポスト</u> を務める等、我が国の標準化活動に直接貢献する着実な成果を上げている。	ITU 等の国際標準化会議において、機構職員から、議長、ラポータ、エディタ等の重要ポストに <u>のべ32名、計75ポスト</u> に輩出し、国際標準化活動の議論をリードするとともに、国内標準や国際標準化会議に向けた我が国の対処方針を検討する国内委員会においても、機構職員が <u>延べ57名が計83ポスト</u> を務める等、我が国の標準化活動に直接貢献する着実な成果を上げている。	誤記を修正
	294 自己評価欄	ITU 等の国際標準化会議において、機構職員から、議長、ラポータ、エディタ等の重要ポストに <u>延べ34名、計70ポスト</u> を輩出し、議論をリード、取りまとめを実施した。また、国内標準や国際標準化会議に向けた我が国の対処方針を検討する国内委員会にも、機構職員が <u>延べ57名、計83ポスト</u> を務め、審議に貢献したこと。	ITU 等の国際標準化会議において、機構職員から、議長、ラポータ、エディタ等の重要ポストに <u>のべ32名、計75ポスト</u> を輩出し、議論をリード、取りまとめを実施した。また、国内標準や国際標準化会議に向けた我が国の対処方針を検討する国内委員会にも、機構職員が <u>のべ53名が計84ポスト</u> を務め、審議に貢献したこと。	誤記を修正
	295	また、国内標準や国際標準化会議に向けた我が国の対処方針の検討を行う国内委員会等の役職者として、 <u>延べ57名の職員</u> が計83ポストを務め、審議に貢献した。	また、国内標準や国際標準化会議に向けた我が国の対処方針の検討を行う国内委員会等の役職者として、 <u>延べ56名の職員</u> が計83ポストを務め、審議に貢献した。	誤記を修正
	296 自己評価欄	ASEAN IVO は、発足時 23 機関だった加入機関が令和7年度には 112 機関 (<u>令和6年度から14機関増加</u>) となり	ASEAN IVO は、発足時 23 機関だった加入機関が令和7年度には 112 機関となり	令和7年度の実績を明確化
	297	ASEAN IVO は、発足時 23 機関だった加入機関が令和7年度には 112 機関 (<u>令和6年度から14機関増加</u>) となり	ASEAN IVO は、発足時 23 機関だった加入機関が令和7年度には 112 機関となり	令和7年度の実績を明確化
8	332	総人件費については、政府と同様に、国家公務員の給与体系に準拠した給与制度維持のため、 <u>令和7年度</u> においても、人事院勧告等に基づく国家公務員給与の改定を法人の給与に反映した。	総人件費については、政府と同様に、国家公務員の給与体系に準拠した給与制度維持のため、 <u>令和6年度</u> においても、人事院勧告等に基づく国家公務員給与の改定を法人の給与に反映した。	誤記を修正

9	337	イ：特許料収入は、	イ：特許料収入は、 <u>特許料収入は、</u>	誤記を修正
	338	技術移転収入は <u>121,741 千円</u> であった。	技術移転収入は <u>121.741 千円</u> であった。	誤記を修正
10	345 自己評価欄	<u>施設・設備の更新</u> ・改修・整備を適切に実施した。	<u>施設・整備のの更新</u> ・改修・整備を適切に実施した。	誤記を修正
	346	未来 ICT <u>研究所のセキュリティ</u> 確保	未来 ICT <u>研究所機構のセキュリティ</u> 確保	誤記を修正
	353 自己評価欄	また、テレビ番組 (<u>ABEMA「ABEMA Prime」、NHK「おはよう日本」、NHK「NW9」</u> 等) 等に、多数の研究者が出演した。	また、テレビ番組 (<u>NHK「ニュース7」、テレ東「WBS」、NHK「チョコちゃんに叱られる！」</u> 、NHK「NW9」等) 等に、多数の研究者が出演した。	誤記を修正
	353	令和8年1月に『令和7年度認知調査』(インターネット調査)を実施し、若者(18～34歳、対象者1,800名)の <u>認知度は23.4%と、令和5年2月調査の16.0%から上昇した。</u>	令和8年1月に『令和7年度認知調査』(インターネット調査)を実施し、若者(18～34歳、対象者1,800名)の <u>認知度は23.4%であった。</u>	「自己評価」欄の記載を「法人の主な業務実績」欄に合致するよう修正
	354	研究成果の報道発表(35件)に対する新聞掲載率は <u>100%であり、直近5年の報道発表件数160件での新聞掲載率は毎年度100%を達成した。</u>	研究成果の報道発表(35件)に対する新聞掲載率は <u>100%であった。</u>	「自己評価」欄の記載を「法人の主な業務実績」欄に合致するよう修正
	361	内部統制委員会を <u>令和7年7月</u> に開催し、	内部統制委員会を <u>令和6年7月</u> に開催し、	誤記を修正
	362	<u>リスクマネジメント委員会</u> を令和7年6月	<u>リスクマネジメント委員会</u> を令和7年6月	誤記を修正

※ページ数に特段の記載がないものは「法人の主な業務実績等」欄の修正